

育苗期の防除

(1) 育苗器具の消毒

農薬名	イチバン
対象病害	・雑菌（細菌、糸状菌）
希釈倍数	500倍
使用方法	・育苗箱は1～2秒浸す ・育苗器具は噴霧器で噴きつける ・置き床へ流さない

※イチバン、モミガードC水和剤の残液は、魚毒性が強く環境汚染の原因となる恐れがあるので、河川や池などに流さないで適正な処理を行う。農協の処理施設への搬入は下記まで

↓

福光農業協同組合管農部「農薬廃液処理施設」
南砺市天神237-1 TEL 52-4153

(2) 種子消毒

農薬名	モミガードC水和剤（化学殺菌剤）	タフブロック（生物殺菌剤）
対象病害	・ばか苗病・苗立枯細菌病・褐条病・いもち病 ・苗立枯病・もみ枯細菌病・ごま葉枯病	・苗立枯細菌病・いもち病・もみ枯細菌病 ・褐条病（催芽時のみ）・苗立枯病・ばか苗病
希釈倍数	200倍	200倍
使用方法	・直播、山土、無加温育苗、ワリフ育苗使用時は、必ず使用する ・乾燥粉重量の2倍の薬液に24時間浸種する ・浸種前に処理する	・催芽前～催芽時に24～48時間種子浸種する（50ページ参照） ・廃液処理は河川等に流れないように地面にしみこませる また、雑菌が混ざっているので作物等にはかけない

使用基準は、それぞれ薬剤のラベルを参考に実施する。

富富富・特別栽培米はタフブロックを使用すること

(3) 播種

農薬名	ダコレート水和剤	カスミン液剤	カスミン粒剤
対象病害虫	いもち病・苗立枯病	苗立枯細菌病・いもち病・褐条病・イネもみ枯細菌病	幼苗腐敗症（もみ枯細菌病菌）・褐条病・苗立枯細菌病
希釈倍数・使用料	500倍	4～8倍	15～20g
使用方法	1箱当たり500mlを目安	播種した種粉の上から均一に散布する	播種した種粉の上から均一に散布する

※タフブロックを使用している場合は使用しない

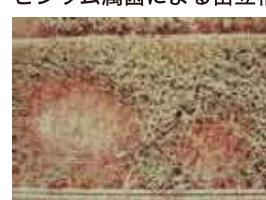
(4) 平床管理…病変が見られた場合のみ（随時防除）

農薬名	ダコレート水和剤	ナエファインプロアブル		
対象病害	青カビ フザリウム菌・リゾープス菌・トリコデルマ菌	赤カビ フザリウム菌	ムレ苗 ピシウム菌	白カビ リゾープス菌
カビの特徴	・白から青に変色し、種子の活力がなくなる最も怖いカビ	・地際部が褐色し、淡赤色のカビ	・出芽が悪く、坪枯状地際部にカビが見られない	発根促進
希釈倍数	500倍（水10lに対し20g）	1,000倍（水10lに対し10ml）		
かん注量		1箱当たり500ml		
総使用回数	播種時から緑化期（但し、播種14日後まで2回以内）	2回以内		

ムレ苗
(ピシウム属菌による急性萎凋症)



ピシウム属菌による苗立枯



トリコデルマ菌に起因する青カビ



直播栽培

作業名	種子塗抹処理（カルパー・鉄）		種子コーティング（カルパー）	
農薬名	ルーチンシードFS	エバー・ゴルシードFS	カルパー粉粒剤16	タチガレースM粉剤
対象病害 使用目的	・白葉枯病 ・もみ枯細菌病 ・いもち病	・紋枯病 ・疑似紋枯症（赤色菌核病菌） ・疑似紋枯症（褐色菌核病菌） ・疑似紋枯症（褐色紋枯病菌）	酸素供給	生育促進
特 徴	・あらかじめ種もみに直接薬剤を処理するため、短時間で簡便に処理が可能 →P.55のオリブライト250Gの散布は不要 ・優れた浸透移行性と長い残効性を有する	・水分と反応して粉に酸素を供給 ・出芽率向上が図られる	・根の生育促進による苗立ちの安定を図る ・カルパー粉粒剤16との同時処理が効果的	
使用方法	・播種前（浸種前または浸種後）（1回） ※浸種前に処理を施す場合は、浸種時に有効成分の流亡を軽減するため、専用の『種子被覆材』を必ず加用する	粉衣（1回）	粉衣（1回）	
使用量	原液6～12ml/乾燥種もみ1kg (原液71ml/10aまで)	原液10ml/乾燥種もみ1kg (原液44ml/10aまで)	乾燥粉重量の2倍以内	乾燥粉重量の3%

※種子塗抹処理の詳細に関しては、P51を参照する。

● 水稻種子処理とは？



吸水時に薬剤が
植物体内に取り込まれる

漫透移行性薬剤として播種用剤と同等の
病害防除効果、残効を発揮する

種もみに薬剤を直接塗沫処理することにより播種用剤と同等の効果、残効性を発揮し田植え後の本田の病害を防除することができる、新しい画期的な処理方法です。

● 湿水直播水稻での種子処理のメリット

本田での面倒な
病害防除から解放！

插種

農閑期

種子処理



薬剤処理を農閑期に移行
(カルパー粉粒剤は約6ヶ月間保存可能*)

暑い夏の時期に本田散布で行っていた防除作業を農閑期に移行できるようになり、省力化が可能になります。